

第3回 医療連携協力医研修会が開催されました

当センター研修室で2月21日（木）に、第3回医療連携協力医研修会を開催いたしました。

当日は協力医の先生方、その他 地区口腔保健センターの歯科医師、歯科衛生士をあわせて45名の方にご参加いただき、ありがとうございました。この研修会も3回目となりましたが、今後もセンターとの連携を深めるためにご参加くださいますよう、お願い申し上げます。



（講演の内容から）

「フォローアップ研修のお知らせ」

教育研修・情報管理室長 山口 さやか

センターの個別研修は、昭和59年の開講以来歯科医師353名、歯科衛生士359名が受講し、平成21年からはフォローアップコースを開催しています。この研修はアドバンスコースを修了された方が、担当した症例や診療経験を重ねるためのコースです。研修期間は研修生の希望で日程調整し、研修を通じて障害者への対応、口腔内診査、歯科治療、予防指導、予防処置の実際を経験します。なおセンターは日本障害者歯科学会の臨床研修施設であり、センターでの臨床経験を元に認定医・認定歯科衛生士資格を取得された方もいます。

「フォローアップ研修を受講して」

加賀谷歯科医院（文京区）院長 加賀谷 昇先生

加賀谷先生は平成20年に個別研修を修了し、引き続きフォローアップコースを受講しています。フォローアップ研修を通じて、障害者歯科診療の経験を積み重ね、日ごろの診療に役立たせている一方、日本障害者歯科学会の認定医資格も取得しました。診療室の近隣に特別支援学校があることもあって、地域でも障害のある方の診療をすすめています。またセンター協力医として、センターからの逆紹介を受けて患者さんの診療を担当しており、患者さんのために必要な医療連携につとめています。

「障害者歯科における保険点数のワンポイント」 診療部長 重枝 昭広

平成24年4月に保険改正のあった項目として次のようなものが挙げられます。

- ① 歯科治療総合医療管理料について：全身状態の把握や管理等が必要であるとして、紹介を受けた患者に対して医科担当医からの情報提供等に基づき、歯科医師が歯科治療に対して、患者の全身状態の管理を行った場合に算定ができます。4月からは規定疾患として、骨粗鬆症（ビスホスフォネート製剤を服用している者）、と慢性腎臓病（腎透析を受けている者）が追加されました。
- ② 歯周病安定期治療（SPT）について：糖尿病や血液疾患などの全身的因子は歯周病のリスクファクターとされています。また遺伝性疾患によっても歯周炎を随伴するものも報告されています。障害者歯科においても、抗てんかん薬を服用している患者やDown症者は歯周病のリスクが高いことが知られています。これまでSPTは3ヶ月毎の算定でしたが、治療間隔の短縮が必要とされる場合、摘要欄記載の上、3ヶ月以内の間隔で実施した費用を月1回に限り算定することができるようになりました。その場合とは 1)歯周外科手術を実施した場合、2)全身の状態により歯周病の病状に大きく影響を与える場合、3)全身の状態により歯周外科手術を実施できない場合、4)侵襲性歯周炎、です。

平成 25 年度 歯科医師・歯科医療従事者集団研修会から

平成 25 年 4 月 14 日（日）「高齢者に対する歯科診療 特に投薬中の歯科治療について」
東海大学医学部外科系口腔外科教授 金子 明寛先生

歯科を受診する患者さんの高齢化とともに、基礎疾患のある方が増えています。こうした方は様々な薬剤を服用していることが多く、基礎疾患の理解とともに医科・歯科で処方される薬剤の相互作用についての正しい知識を持つことが必要とされています。

- ① 「併用禁忌理由の多くは CYP」: CYP (Cytochrome P450) は主に肝臓に存在する薬物代謝酵素で、CYP の増加は代謝が早くなることで薬の効果の低減につながり、逆に CYP の阻害は代謝が遅くなり、副作用の発現をもたらします。たとえば CYP3A4 代謝のクラリスロマイシン (クラリス® など) では、他薬剤と多くの相互作用がみられます。
- ② 「禁忌事項が多い抗真菌薬」: 歯科で処方されるアゾール系抗真菌薬 (フロリードゲル経口用® など) は、トリアゾラム (ハルシオン® など) との併用が禁忌です。トリアゾラムの血中濃度の増加や排泄半減期の延長、時に心停止を起こす可能性もあります。
- ③ 「骨粗鬆症との関連」: ステロイドの長期投与は、骨形成の低下と骨吸収の増加を招きます。ステロイド性骨粗鬆症の治療のためにビスホスホネート (BP) 製剤が併用されることが、今後増えてゆくと考えられます。歯科治療は、BP 治療開始前に抜歯や歯周外科治療を行うこと、BP 服用中はこのような処置は避ける、といったガイドライン (社団法人日本口腔外科学会、2008) が策定されています。
- ④ 「新しい抗凝固薬」: これまでのワルファリンに加え、ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩剤 (プラザキサ®) が使われるようになってきました。同薬は患者ごとの投薬量調節が不要などの利点がある一方、抜歯時の休薬のエビデンスはまだなく、またクラリスロマイシンやジクロフェナックナトリウム (ボルタレン®) との相互作用 (抗凝固作用増強) が報告されています。

「センター新任職員の紹介」

平成 25 年度、新たに 6 名の医療職の職員が加わりましたのでご紹介いたします。



(後列左から)

看護師: しまだ ゆかり 島田祐何里、言語聴覚士: ひろせのふよ 廣瀬信代

(前列左から)

歯科衛生士: しばたあきえ 柴田明絵、たなかゆきえ 田中幸枝、うえのももこ 上野桃子、もりやかおり 森谷佳織

「言語療法外来からのお知らせ」

前任者退職のためしばらくの間 言語療法外来を中断していましたが、廣瀬の着任に伴い 4 月より言語指導を開始いたしました。ことばの遅れや言語機能に障害のある方で、ご要望のある患者さんがいらしたら、ぜひセンターまでご紹介ください。

集団研修会・個別研修会 受講申し込み受付中!

ホームページでは 25 年度に開催される研修会をご紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

申し込み・問い合わせ先: センター研修担当

「連携だより」に関する問い合わせ: 東京都立心身障害者口腔保健センター・医療連携室

TEL (03) 3235-1141 (代) / FAX (03) 3269-1213

URL <http://www.tokyo-ohc.org>